

## 7. 地域別の方針

多様な地形条件に対応した農業・農地が展開される地域として、市域を4地域に区分します。それぞれの地域の特性に応じたきめ細やかな対策に取り組むため、地域別の農業振興の方針を定めます。

### 金勝地域

農業振興のテーマ  
『清流と緑あふれる里山が育むこんぜの農業』

農業振興の目標

- 地域の農業を託す担い手支援と受け入れ環境づくり
- 農地の適正管理及び効率化の推進による多面的機能の維持向上
- 魅力ある農業資源を活かした都市農村交流の推進

農業振興の方向性図

### 葉山地域

農業振興のテーマ  
『地域が支える元気で魅力あふれる葉山農業』

農業振興の目標

- 地域ぐるみで取り組む元気な営農環境づくり
- 都市と共存する美しい田園環境の保全
- 地の利を活かした都市農村交流の推進

農業振興の方向性図

### 治田地域

農業振興のテーマ  
『人に寄り添い、暮らしとともにある治田の農業』

農業振興の目標

- 地域の農業を牽引する担い手が育つ営農環境づくり
- 持続可能な農地の確保・保全
- まちなかの農地を活かした農に親しむ環境づくり

農業振興の方向性図

### 大宝地域

農業振興のテーマ  
『農と住が共存し、農と人の交流が生まれるまち 大宝』

農業振興の目標

- 地域の農業を託す多様な担い手の受け入れ及び支援
- 市街地及び周辺の貴重な農地の確保・保全
- まちなかの農地を活かした農に親しむ環境づくり

農業振興の方向性図

# 栗東市農業振興基本計画【概要版】

～ みんなでとりくみ未来へつなぐ、安心して元気な暮らしを育む栗東の農業の実現を目指して ～



## 1. 計画策定の背景と目的

栗東市は、金勝連峰のふもとに広がる丘陵地帯から近江盆地の平地に至る、多様な地形条件と風土の中に農地が生まれ、水稲から麦・豆、施設園芸など、多種多様で特色ある質の高い農作物の生産が営まれている、農業の盛んな地域です。本市の成り立ちを基盤から支えてきた農業・農地は、食料供給だけではなく、地域の防災や環境維持、文化の伝承など様々な機能を有しており、私たちの暮らしになくてはならない大切な産業です。

一方で近年、ライフスタイルの多様化、食の安全・安心への関心の高まり、グローバル化、頻発化・激甚化する自然災害など、農業・農村をめぐる社会的・経済的諸状況は急激に変化しています。本市においても、農業従事者の高齢化や後継者不足による担い手の減少、耕作放棄地の増加など農業構造の変化が予測され、将来的な本市農業への深刻な影響も懸念されます。

こうした状況のもと、本市の農業を取り巻く社会経済情勢等に対応し、多様な主体との連携のもと将来にわたる持続可能な地域農業の確立及び健全な発展を図るため、農業振興の総合的、計画的な指針となる「**栗東市農業振興基本計画**」(以下「本計画」という。)を策定します。

## 2. 計画の位置付け

本計画は、本市まちづくりの最上位計画である「栗東市総合計画」等に基づくとともに、国の「食料・農業・農村基本計画」、及び滋賀県の「農業・水産業基本計画」等を踏まえた、**本市の農業施策に関する最上位の計画**として、本市の農業他関連計画等との整合を図りつつ、関係機関等の協力を経て推進していくものとします。

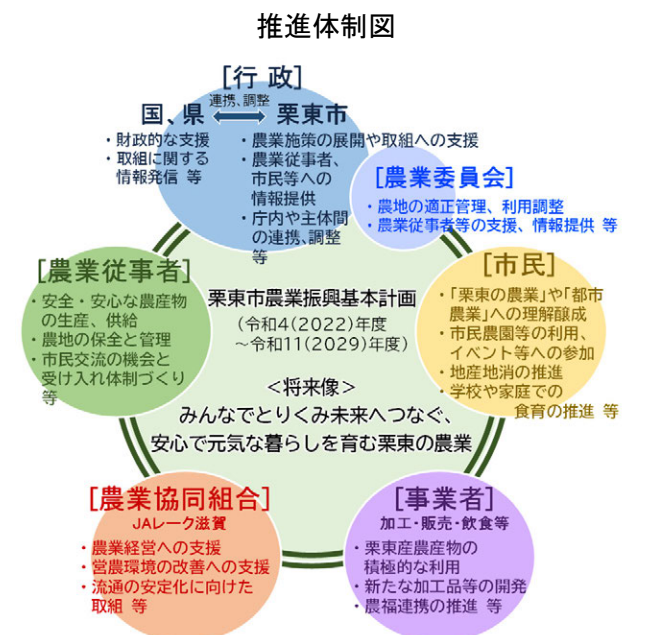
また、都市的地域の特性を活かした農業振興にも焦点をあて、その振興を図るべく、本計画を都市農業振興基本法第10条に定める本市の都市農業の振興に関する計画を兼ねた計画として推進します。

## 3. 計画期間及び推進体制

本計画は、**令和4(2022)年度から令和11(2029)年度までの8年間**を計画期間とします。

本計画の円滑かつ着実な推進を図るため、計画期間中を短期(毎年評価)・中期(中間年評価)・長期(最終年総括)の各期間に区切り、定期的なフォローアップによる進捗管理及び効果等の検証を行います。

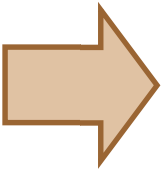
本計画を推進し、本市の農業振興を図るべく、行政、農業従事者、農業関係団体、市民や事業者等の多様な主体が、それぞれの役割のもと、相互に協力・連携し、生産から消費まで一体となった推進体制の構築を図ります。



## 4. 栗東市の農業の特徴と課題

### ●栗東市の農業の特徴

<p><b>都市近郊に展開する農業</b></p> <p>交通の要衝として高い交通利便性を有する本市は、市内に複数の農産物直売所が立地しており、また市民が本市に持つ農業のイメージとして「都市と農業の共存」を挙げるなど、大都市圏に近い生産地として農業の活性化が期待されます。</p>	<p><b>土地利用型農業を中心とした特色ある農作物の生産</b></p> <p>本市では、稲作をはじめ土地利用型農業が主として展開されてきました。「こんぜ清流米」などこだわりの米の栽培が行われ、また園芸施設による軟弱野菜の栽培が盛んです。県下でも有数のイチジクの産地で、「栗東いちじく」として販売されています。</p>	<p><b>平地から中山間地域まで多様な地域性をもつ農地</b></p> <p>本市の多様な地形条件のもと、地域に対応した農地が展開されています。市南部の中山間地域には棚田が保全され、市中部には大規模で生産性の高い農地が広がります。市北部の市街地周辺の農地は、都市活動との調整が求められます。</p>	<p><b>多様な農業経営体に支えられた地域農業</b></p> <p>本市は比較的小規模な農家が多いことが特徴といえますが、認定農業者の認定や集落営農の組織化も進み、多様な農業経営体に支えられた地域農業が各地で展開されています。走井地区では、地域が中心となり、棚田保全活動に取り組まれています。</p>	<p><b>市民の農に対する高い関心と理解</b></p> <p>農業を身近に感じる取組に対する市民の関心は高く、市内に開設されている市民農園は多くの利用で賑わっています。市民アンケートでは、まちなかの農地や中山間地域の農業を守ることに多くの回答者が必要と答えています。</p>
--	--	--	--	---



### ●農業振興に向けた主な課題

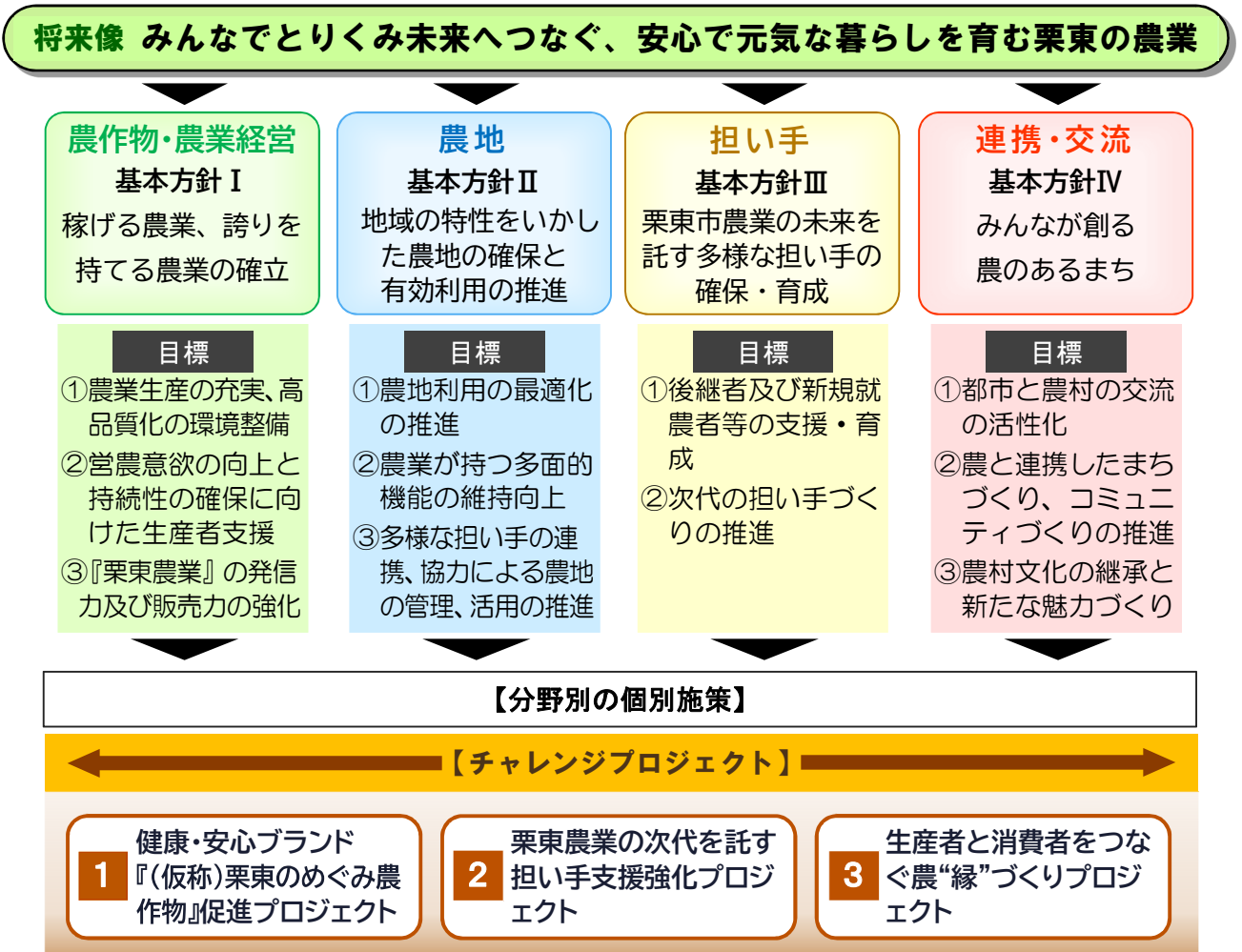
<p><b>農作物の課題等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農作物の安定供給、高品質化への対応が求められる。</li> <li>市の農業や特産品に対するPRが不足している。</li> <li>全国に誇れる農産物がない。等</li> </ul> <p><b>農業経営の課題等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域農業の中心的役割を担う担い手について、その営農意欲に答える取組が必要。</li> <li>都市近郊の農地という優位性を活かしてきれていない。等</li> </ul> <p><b>市民理解・交流の課題等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業を身近に感じる取組への市民の関心が高い一方、市民農園として貸し出される農地は限られている。</li> <li>生産者と消費者が直接触れ合える機会が少ない。等</li> </ul>	<p><b>農地の課題等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農地は一貫して減少傾向にあり、優良な農地の保全が必要。</li> <li>中山間地域では、有害鳥獣被害の拡大や耕作放棄地等の増加による農地の荒廃や周辺環境への影響が懸念される。</li> <li>市街地の農地について、その価値や魅力を活かした暮らしの実現が求められる。等</li> </ul> <p><b>担い手に関する課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農家は一貫して減少傾向にあり、後継者が育たない場合、「栗東いちじく」などその継続が危ぶまれる。</li> <li>新規就農相談の受け皿となる体制が十分でない。</li> <li>将来の担い手となりうる子ども達等への取組が必要。</li> <li>地域の農業振興のリーダーとなるべき人材の不足。等</li> </ul>
--	--

## 5. 農業振興の基本的な考え方

### ●栗東市農業の目指す将来像、基本方針

本市の農業が抱える課題を克服し、その特性を最大限に活かしていくため、これまで地域の農業を担ってきた生産者だけでなく、市民をはじめとする消費者、さらに都市部の住民をも巻き込みながら、栗東の農業をみんなで支え合い、栗東ならではの都市近郊型の農業を確立していくことが必要です。

そして、その先の50年、100年先を見据えた、“農業を通じた持続可能な社会”を構築すべく、栗東市農業の目指す将来像及び基本方針、目標を以下と定めます。



## 6. 農業振興のための具体的施策

### ●チャレンジプロジェクト

将来像の実現のための具体的施策として、特に複数の分野に関わり農業振興を推進していくための土台づくりに資するもの、地域振興や学校教育など他分野と関連し取組の相乗効果が期待できるもの等について、**今期計画を牽引する役割を担う重点施策＝「チャレンジプロジェクト」と位置づけ、以下の3つのプロジェクトを設定**します。

<p><b>1 健康・安心ブランド『(仮称)栗東のめぐみ農作物』促進プロジェクト</b></p> <p>都市近郊という地域の強みを活かした、消費者に選ばれる魅力ある農作物づくりに取り組みます。その認知度向上と販路拡大を通じて、生産者の経営安定化や担い手の確保等へと繋げていきます。</p> <p><b>関連するSDGsのゴール</b></p> <p><b>達成目標</b> ( ) 達成年度</p> <table border="1"> <tr> <td>「栗東いちじく」直売所・市場出荷量</td> <td>16 t/年 (R11)</td> </tr> <tr> <td>「栗東いちじく」の担い手(生産者)数</td> <td>17 戸 (R11)</td> </tr> </table> <p><b>重点取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■『(仮称)栗東のめぐみ農作物』制度の構築</li> <li>■ // 制度の普及啓発及び登録</li> <li>■ // 応援サポーターの獲得</li> <li>■農業の6次産業化の推進</li> <li>■栗東いちじくの販路拡大の推進</li> <li>■栗東いちじく生産者の支援</li> </ul>	「栗東いちじく」直売所・市場出荷量	16 t/年 (R11)	「栗東いちじく」の担い手(生産者)数	17 戸 (R11)	<p><b>2 栗東農業の次代を託す担い手支援強化プロジェクト</b></p> <p>次代の担い手の確保・育成は、本市の喫緊かつ最重要課題のひとつです。地域の中心的な経営体等への継続的な支援に加えて、多様な人々に職業として農業を選んで頂くための担い手支援を推進します。</p> <p><b>関連するSDGsのゴール</b></p> <p><b>達成目標</b> ( ) 達成年度</p> <table border="1"> <tr> <td>認定新規就農者数</td> <td>10 人 (累計、R11)</td> </tr> </table> <p><b>重点取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■人・農地プランの実質化の推進</li> <li>■地域の中心的経営体への支援</li> <li>■農業後継者及び新規就農者の確保・育成</li> <li>■ワンストップ型育成システムの強化・拡充</li> <li>■栗東市チャレンジ農業塾</li> <li>■小中学校等での農業体験</li> <li>■JALレーク滋賀「わんぱくスクール」</li> </ul>	認定新規就農者数	10 人 (累計、R11)	<p><b>3 生産者と消費者をつなぐ農“縁”づくりプロジェクト</b></p> <p>将来の農業の可能性を広げていく潜在的な層になると考える市民や都市住民等を対象に、本市の農業や農作物に対する理解と関心を醸成し、様々な形で農と関わる場や機会の創出・支援に取り組みます。</p> <p><b>関連するSDGsのゴール</b></p> <p><b>達成目標</b> ( ) 達成年度</p> <table border="1"> <tr> <td>特定農地貸付法による市民農園の開設箇所数</td> <td>4 箇所 (R11)</td> </tr> <tr> <td>「野菜教室」への参加者数</td> <td>100 人 (累計、R11)</td> </tr> </table> <p><b>重点取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■市民農園の整備促進</li> <li>■市民向け農業研修会の実施</li> <li>■地域資源を活かした都市農村交流の推進</li> <li>■農業収穫イベント等の充実</li> </ul>	特定農地貸付法による市民農園の開設箇所数	4 箇所 (R11)	「野菜教室」への参加者数	100 人 (累計、R11)
「栗東いちじく」直売所・市場出荷量	16 t/年 (R11)											
「栗東いちじく」の担い手(生産者)数	17 戸 (R11)											
認定新規就農者数	10 人 (累計、R11)											
特定農地貸付法による市民農園の開設箇所数	4 箇所 (R11)											
「野菜教室」への参加者数	100 人 (累計、R11)											